

和歌山県立医科大学附属病院 血液内科

当科の特徴

当科には日本血液学会認定専門医が5名、日本内科学会認定総合内科専門医が2名、日本輸血・細胞治療学会認定医が2名在籍しており、基本領域としての内科、サブスペシャルティーとしての血液内科および輸血細胞治療の指導体制が整っています。当科出身の医師が常勤している連携病院は、紀南病院、海南医療センター、和歌山ろうさい病院で、血液疾患だけでなく様々な内科疾患を経験することができます。同種造血幹細胞移植は難治性血液疾患の根治を目指す治療です。当科は年間20 - 30例の同種造血幹細胞移植を行っており、2016年の同種造血幹細胞移植件数は、全国の大学病院（本院の82施設）中17番目です。（2016年に実施された移植の診療科別報告件数）。また、和歌山県下の多種多様な血液疾患を診療しています。卒後1、2年目の臨床研修（初期研修）修了後、3年目から5年目までは原則、新専門医制度に準拠した「和歌山県立医科

大学内科専門研修プログラム」に従って研修を行います。内科専門研修期間における地域医療の経験には、原則、当科出身の医師が常勤する医療機関で研修を行います。

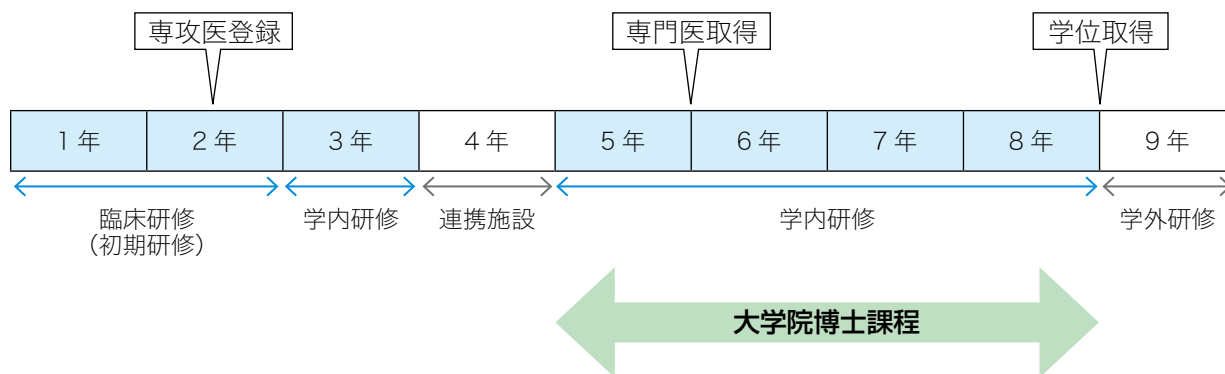
大学院入学時期については、講座担当責任者との相談の上、決定します。国内外への留学も可能で、これまで当科に所属した医師の留学先は、国立がん研究センター中央病院、国際医療センター、大阪大学免疫学フロンティア研究センター、米国フレッドハッチンソン研究所、国立シンガポール大学です。



ローテーション例

一般枠コース

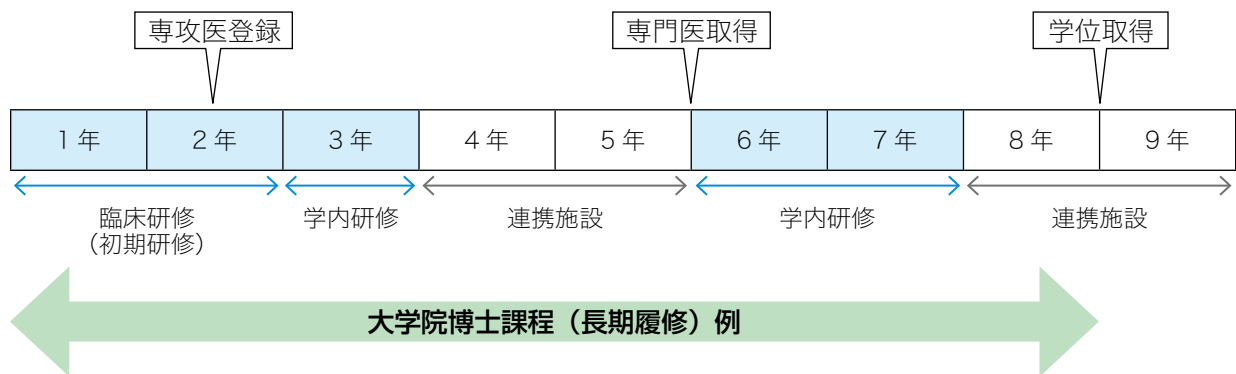
※ □ は学内研修



一般枠医師については、原則、和歌山県立医科大学内科プログラムのローテーションに従って研修を行います。

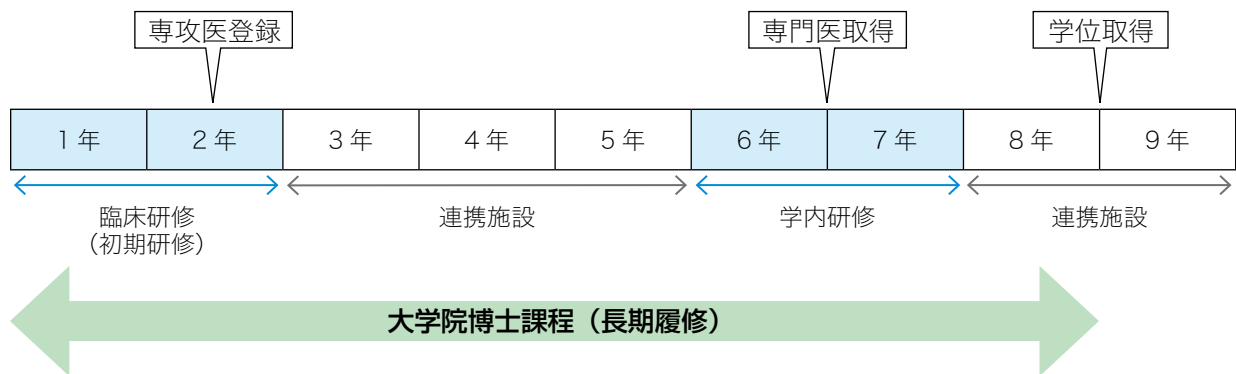
詳細は卒後臨床研修センター HP (<http://www.wakayama-med.ac.jp/med/sotugo/program/tmp-kouki.html>) に載っています。内科専門医取得後は、和歌山県立医科大学附属病院、紀南病院、海南医療センター、和歌山ろうさい病院などで、研修を行います。大学院入学時期については講座責任者と相談の上決定し、9年目以降に学位取得予定です。学位取得の目処がつけば、学外研修を行い、高度な医療の実践を目指します。

ローテーション例 県民医療枠コース ※ □ は学内研修



3年目は基幹施設である和歌山県立医科大学附属病院で研修を行います。4年目、5年目は地域中核病院である紀南病院、海南医療センター、和歌山ろうさい病院などで幅広い内科疾患を経験します。基本領域専門医取得後は大学に戻って、研究や高度な医療に従事します。8、9年目には地域中核病院で後輩の指導を行いながら、地域中核病院で活躍できる医師を目指します。大学院入学時期については講座責任者と相談の上決定し、9年目以降に学位取得予定です。内科専門医は5年目、日本血液学会認定専門医は6年目に取得予定です。和歌山県立医科大学海外研修制度を利用した海外短期留学を推奨しています。

ローテーション例 地域医療枠コース ※ □ は学内研修



地域医療枠コースでは臨床研修（初期研修）の後、3年から5年目まではへき地医療拠点病院等で研修を行います。6、7年目には大学に戻ることによって高度な医療にも触れる機会があり、8、9年目にはへき地医療拠点病院等で後輩の指導にあたりながら血液内科のみならず、総合的内科医や家庭医としてのスキルを磨いていきます。大学院入学時期については講座責任者と相談の上決定し、9年目以降に学位取得予定です。なお、内科専門医は6年目に、日本血液学会認定専門医は6年目に取得予定です。

研修目標

当科での研修は以下の能力を身に付けることを目標としています。

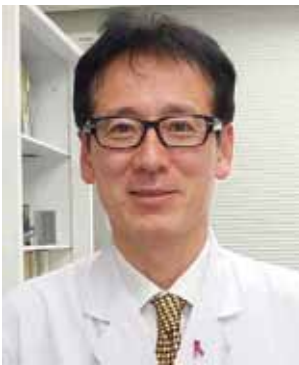
1. 内科医としての役割を認識し、社会に貢献できること
2. 一般的内科疾患や救急疾患のマネージメントができること
3. 血液疾患の診断（血液標本の診断を含む）ができること
4. 血液疾患のエビデンスに基づく治療ができること
5. 受け持ち患者の科学的考察を行い、学会や雑誌に発表できること
6. 他職種や他施設と十分な連携がとれること

経験目標

当科では日本内科学会や日本血液学会の認定医制度に準拠するとともに、以下の経験を積むことを修了条件にしております。

1. 悪性リンパ腫：40例以上
2. 急性白血病：20例以上
3. 多発性骨髄腫：10例以上
4. 同種造血幹細胞移植：5例以上
5. 自己末梢造血幹細胞移植：5例以上
6. 学会発表（筆頭）：1回以上
7. 論文（筆頭）：1回報告以上

教授からのメッセージ



園木 孝志 教授

血液内科の患者さんの約8割は白血病、悪性リンパ腫といった造血器腫瘍です。造血器腫瘍の診療においては内科治療がメインであり、内科治療によって根治を目指すことができます。ガン告知から長い治療を経て、患者さんに「完治」を話せる時は臨床医として最もうれしい瞬間です。しかし、残念な転帰をたどる患者さんたちも未だたくさんいらっしゃいます。特に、造血器腫瘍は若

い人たちにも発症し、小さいお子さんなどがいらっしゃると心が痛みます。難治性の患者さんを何とか治せないものか、何とかできないものか、と日々、私たちは考えています。

血液は全身をくまなく回っていることから、血液疾患診療にあたっては全身を診察する習慣がつきます。また、長期にわたる診療を担当しますので、疾患だけでなく患者さんを取りまくいろいろな問題に気づかされます。血液疾患診療は患者さんの「全体像」をとらえるよい訓練になると考えています。血液疾患においては、発症機構の基礎的研究がさかんに行われており、分子標的薬や抗体療法の先駆けとなっています。当科においても、特異な経過を示した疾患の細胞株やモデルマウスを作成して、新しい治療を目指した発症機構の研究を行っています。

当科で取得可能な専門医と指導体制

- ・日本血液学会認定専門医
- ・日本血液学会認定指導医
- ・日本輸血・細胞治療学会認定医

研修施設	常勤医	非常勤医	
紀南病院	1人	2人	
海南医療センター	1人	1人	
和歌山ろうさい病院	1人	1人	